【授業科目】音楽療法　　Music Therapy

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
西村 雅	1年次 後　期	選　択	1	15	講 義	あり		可

授業概要 （内容と進め方）及び 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ 方法	授業概要／音楽療法の定義「音楽療法とは、音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」を受け、医療を学ぶ学生として何を考え、何を実践していかねばならないか、共に考える。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出された課題については講義内で解説する。
実務経験に関する 授業内容	日本音楽療法学会認定音楽療法士の臨床経験をもつ教員が、音楽療法士として必要な資質や能力、将来的な音楽療法の必要性について、事例などの資料・教材を交えながら指導していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から医療技術援助ができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	1．音楽療法における一般的な知識を学ぶことができる。 2．治療現場で役立つ知識や方法を学ぶことができる。 3．音楽療法がもたらす効果や方法について学ぶことができる。
時間外学習に必要 な学修内容および 学習上の助言	配布資料を読んで予習・復習すること（30分） 必要に応じて専門用語の意味などを調べ理解しておくこと（30分） 音楽の内容を深く聴くこと（1時間） 課題に対するプレゼンテーションの準備をすること（30分） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第１回 ガイダンス 音楽療法概論：音楽療法の歴史、音楽療法における音楽の役割、対象と目的 第２回 音楽療法の基礎知識①：音楽の生理的・心理的作用について考える、人体への効果 第３回 音楽療法の基礎知識②：事例紹介、ニーズに合わせた音楽療法、音楽療法の評価 第４回 音楽療法の基礎知識③：さまざまな音楽療法 （神経学的音楽療法、コミュニティ音楽療法、即興音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法、GIM） 第５回 音楽療法による実践と応用① 音楽療法士の役割、セッションプラン（作成、評価、目標、使用曲）、パーソナルソング 第６回 音楽療法による実践と応用② 音楽療法に携わるにあたり、必要な技術や資質について必要なこと 音楽療法に使用する楽器（打楽器、ギター、ピアノ、歌、管楽器）について 第７回 音楽療法による実践と応用③ 音楽療法に使用する使用曲（童謡、演歌、日本歌曲）について 第８回 音楽療法による実践と応用④ 音楽療法セッションプランを作成し、実践する。
評価方法評 価基準	授業中の質疑応答（40%）及び提示される課題の提出（60%）を合算し、評価する。 第8回の授業後、音楽療法を必要とするクライアントに対して、セッションプランを作成する。また、どのような音楽を使用し、どのような方法や目的で音楽療法を実践するかを考える。音楽療法セッションに使用した楽曲や使用目的、方法をまとめ、課題提出し、それをもとに評価する。
教科書	なし　　参考書等　＊資料を授業時に配布する。
学生への メッセージ	将来的に必要とされる新しい音楽の形として、音楽療法が注目されています。 音楽療法は、主に日本の医療現場や教育、福祉などの現場で必要とされています。 講義を通じて、どのような音楽療法の効果が期待されるのか、また、セッションを実施する音楽療法士としての役割について学んでいきましょう。

全て
西村